

CSR2プロジェクト報告書

～継承と進化～



CSR 2 プロジェクト 継承と進化

公益社団法人
全国産業廃棄物連合会

目次 Contents

内容	頁
● 連合会理念	2
● 連合会概要	3
● 組織体制	3
● 沿革	4
● 連合会の目的と事業	4
● 連合会トップメッセージ	5
● 青年部協議会トップメッセージ	6
CSR2プロジェクト	
● 概要	7
● サポート体制	8
● 取り組み部門	9
● 表彰について	11
表彰取り組み事例	
ご当地CSR活動部門	
● 一般社団法人茨城県産業廃棄物協会青年部	12
● 公益社団法人神奈川県産業廃棄物協会	14
コンプライアンス部門	
● 近畿環境保全株式会社	16
環境貢献部門	
● ティー・ビー・ロジスティクス株式会社	18
社会貢献部門	
● 近畿環境保全株式会社	20
地域貢献部門	
● 福井興業株式会社	22
ステークホルダーとの共同実施部門	
● 三和興業株式会社	24
びりり部門	
● 甲陽興産株式会社	26
● 株式会社興徳クリーナー	28
人づくり部門	
● 仲田総業株式会社	30
● 街クリーン株式会社	32
● 三木資源株式会社	34
データ	
● エントリー数	36
● エントリー率	37
● 取り組み事例報告数	38
● メディア掲載事例	39
有識者意見	40
今後の取り組み	42
CSR2プロジェクトテーマソング	43
エントリー企業一覧	44

“環境を守り、産業を支える”

よりよい生活環境をまもるために・・・

“産業廃棄物”なんて「私には関係ないもの」と思われがちですが、本当にそうでしょうか？

いまどんな服を着ていますか？ クルマはお持ちですか？

職場で使うものや作るものには、どんなものがありますか？

病気的时候にはどうしますか？

服を作る工場からは、裁断くずなどがたくさん出されます。

自動車工場や電気製品などを作る工場からはなにが出てくるでしょうか。

金属のくず、プラスチックのくず、割れたガラス・・・

すべて産業廃棄物です。

また、あなたのお仕事だって産業廃棄物をうみだしているのです。

病院に行ったら、注射をされたり、クスリをもらったりしますね。

使われた注射針がその後どうなるか考えたことがありますか。

やはりこれも、感染性と言われるたいへん危険な産業廃棄物になるのです。

このように、私たちがふだん暮らしている中では気がつかないところからさまざまな産業廃棄物が生まれています。

人が便利で快適な生活を営むために排出されている大量の産業廃棄物・・・

この産業廃棄物が正しく処理されなければどうなるでしょうか。

自然環境が破壊され、私たちの生活環境が汚染されてしまいます。

環境の破壊は、やがて産業活動の停滞をももたらすこととなります。

だからこそ、減量化・再資源化、そして適正な処理が必要なのです。

“環境を守り、産業を支える”

それが私たち産業廃棄物処理業界の仕事です。



概要 Outline

公益社団法人 全国産業廃棄物連合会は産業廃棄物の適正処理を推進し、国民の生活環境の保全と産業の健全な発展に貢献することを目的として昭和53年に創立されました。その後、昭和60年に厚生大臣の許可を受けて公益社団法人化され、平成13年からは環境大臣の所轄となりました。全国産業廃棄物連合会は、都道府県を単位とした産業廃棄物処理業者で組織する団体からなる公益法人です。

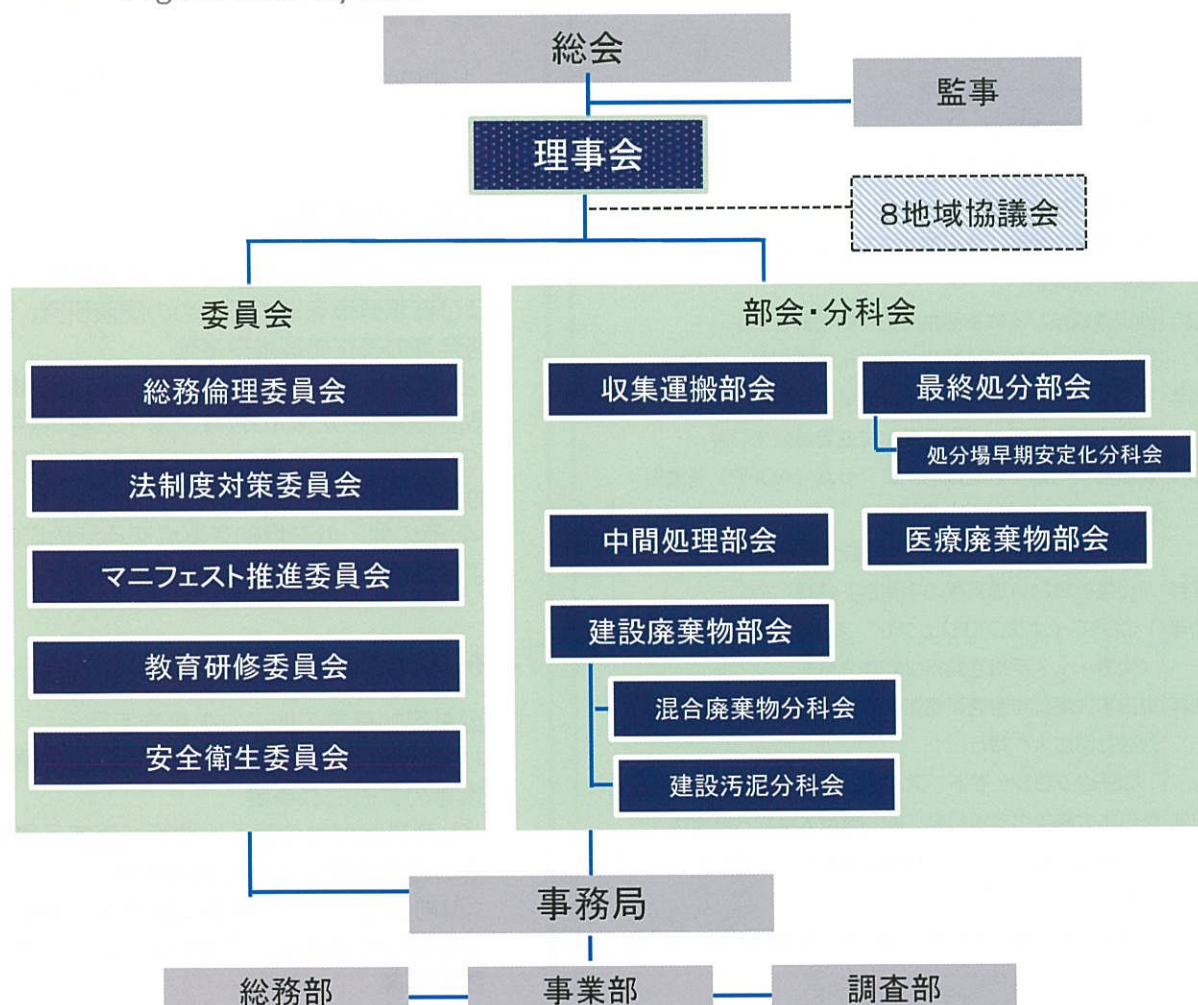
創立以来、適正な処理体制の確立のために全国の処理業者の組織化、経営基盤の整備、研修会の開催、処理技術の研究・開発、福利厚生制度の充実、専門誌の発行などさまざまな事業を展開しています。

National Federation of Industrial Waste Management Associations was organized in 1978 for intended contribution to promote proper disposal of industrial waste for the living environment preservation and sound industrial development. After that, this federation chartered by the Ministry of Health and Welfare in 1985 and had the jurisdiction of the Minister of the Environment in 2001. This federation is a corporation comprising bodies organized by industrial waste management contractors in each prefecture.

Since its foundation, the federation has been establishing an appropriate industrial waste management system including organization of waste management contractors, reinforcement of management cases, promotion of seminars, research and development of solid waste management technologies, improvement of welfare programs and publication of technical journals.



組織体制 Organization System





沿革

1978年	全国産業廃棄物連合会創立
1985年	社団法人 全国産業廃棄物連合会設立
1986年	季刊「いんだすと」創刊
1988年	地域協議会制度を制定 「いんだすと」を月間化
1992年	産業廃棄物適正処理のマスコット「てき丸」の作成 部会、専門部会制度を制定（中間処理部会、医療産業廃棄物専門部会を設置）
1993年	厚生省・警察庁と共同で産業廃棄物不法処理防止連絡協議会を設置
1995年	建設廃棄物専門部会を設置
1996年	医療廃棄物適正処理推進プログラム（ADPP）を実施 阪神・淡路大震災の支援活動に関し厚生大臣から感謝状
1997年	最終処分部会を設置
1999年	収集運搬部会を設置 「産業廃棄物処理受託の手引き」発行 公式ホームページを開設
2000年	青年部協議会設立 単行本「廃棄物処理と経営」発行
2001年	会長諮問機関設置
2002年	厚生労働省事業「成長産業における安全衛生活動基盤整備事業」を開始
2003年	倫理綱領及び不祥事発生時の行動指針を策定 厚生労働省事業「産業雇用高度化推進事業」を開始
2004年	「産業廃棄物処理業優良化推進事業」参画 産業廃棄物処理業雇用高度化推進委員会を設置
2005年	建設廃棄物適正処理推進プログラム（ADPP）を実施 法人化20周年記念式典開催 「全国産業廃棄物連合会 環境自主行動計画」策定
2007年	「災害廃棄物処理支援の手引き」発行
2009年	「CO ₂ マイナスプロジェクト」スタート （災害・・・手引き発行は同年2月）
2011年	東日本大震災災害廃棄物処理支援特別対策本部設置 公益社団法人へ移行 「CSR2プロジェクト」スタート
2012年	東日本大震災の支援行動に関し環境大臣から感謝状
2013年	「CSR2プロジェクト～継承と進化～」スタート
2014年	てき丸君Newsの発行
2015年	「全国産業廃棄物連合会 低炭素社会実行計画」を策定



連合会の目的と事業

全国産業廃棄物連合会は公益社団法人として、以下の「目的」をもって各種「事業」に取り組んでいます。

【目的】

産業廃棄物の適正処理等に係る調査研究及び人材育成等を行うことにより、我が国における産業廃棄物の適正処理の確保、不法投棄の防止及び資源循環等の取り組みを促進し、もって公衆衛生の向上、持続可能な循環型社会の形成及び地球環境保全等の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】

上記目的を達成するため、次の事業を全国において行う。

<公益目的事業>

- (1) 産業廃棄物の適正処理、不法投棄の防止及び資源循環を進めるための調査研究、普及啓発等の適正処理推進事業
- (2) 産業廃棄物の適正処理及び資源循環に係る能力開発のための教育研修・人材育成事業
- (3) 産業廃棄物に係る地球環境保全対策を目的とした事業
- (4) その他、公益目的を達成するために必要な事業

<その他の事業>

公益目的事業の他に次の事業を行う。

- (1) 正会員である47都道府県協会の情報交換等の共益的な事業
- (2) 産業廃棄物の適正処理等に資する講習会等の各種事業への協力連携事業
- (3) 前2号に定める事業に関連する事業その他公益目的事業以外で連合会目的の達成に必要な事業

ご挨拶

“CSR2プロジェクト～” 継承と進化～に寄せて

近時、産業廃棄物処理業界を取り巻く環境を見ますと、東日本大震災をはじめとする災害を教訓として、災害廃棄物を円滑かつ迅速に処理するため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び災害対策基本法の一部を改正する法律が7月に可決、成立しました。この改正により災害廃棄物処理における産業廃棄物処理事業者の役割がより明確になり、今後は、地域ブロック、地方自治体における災害廃棄物に関する計画作りが進む中で、産業廃棄物処理業界の技術、経験を活かしていくことが重要になります。

また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは「スポーツを通じた持続可能な社会づくり」が提唱され「廃棄物から資源へ」が位置づけられています。このことは産業廃棄物処理業界も循環型産業への流れを拡大していく絶好の機会を得たといえるものです。

一方、連合会では平成19年度に策定した「地球温暖化対策環境自主行動計画」の次期計画である「低炭素社会実行計画」を5月に策定し、取り組みを継続することとしています。

このような状況下において、次代を担う青年部の皆様が取り組みを続けてきたCO₂マイナスプロジェクトや4年目を迎えたCSR

2プロジェクトは、産業廃棄物処理業界が循環型社会や低炭素社会を支える旗手の一人として、社会に認識される重要な活動であると敬意を表するものです。

昨年11月に“いざ出陣！継承と進化へ新たななる挑戦！”をテーマに名古屋で開催された全国大会は多くの参加者を得て、「CSR2プロジェクト～継承と進化～」の集大成の場ともなりました。プロジェクトは8部門に107もの取り組みの報告があり、取組事例が発表され、部門毎に表彰が行われました。このように多くの活動が継続されていることに改めて敬意を表するものです。

この度、4年間の取り組みが“CSR2プロジェクト～継承と進化～”報告書として、まとめられることは、まさに後世に継承し進化させるためにも、大変喜ばしいことであります。ご理解と協力をいただきました環境省はじめ関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

青年部協議会及び各正会員青年部におかれましては、さらなる活動の進展を図りながら、連合会及び各都道府県協会の事業運営にも、その行動力を発揮していただき、当業界の将来の発展を担っていただけることを、大いに期待いたします。



公益社団法人 全国産業廃棄物連合会 会長

石井 邦夫

ご挨拶

PLANNING FOR THE FUTURE ～未来への計画～

全国産業廃棄物連合会青年部協議会も平成12年の設立から15年を経て、この間、様々な取り組みを行ってまいりました。

そんな中、各都道府県において設立当初のメンバーの卒業が始まり、青年部内における世代交代も進んでいます。青年部協議会は諸先輩方の残していただいた実績と歴史を継承しつつ、更なる進化と発展に向け、全国の青年部会員のみならず、連合会、各都道府県協会、各種団体とも協力し一般市民に対しても、青年部協議会の存在感と行動力を示すことが一層求められる状況にあると考えます。

当協議会としても、時代の変化に的確に対応しながら、改めて情報基盤の整備・充実、そして次の時代を担う世代にふさわしい能力と知識を身につけていくため、①未来への計画の実践、②魅力ある会づくり、③明日を担う人づくりの三つの柱を掲げ、震災被災地の復興支援、連合会が掲げる低炭素社会への貢献や産業廃棄物処理業の海外展開に向けてのチャレンジ、全国の青年部会員の資質向上、教育研修に向けた取り組みをさらに深め、各地域ブロック協議会活動の支援等を行ってまいります。

全国産業廃棄物連合会 青年部協議会 会長

仲田 陽介





CSR2プロジェクト



概要 Outline

近年、企業は事業活動を行う中で、社会的な公正さや環境への配慮、地域貢献等を通じて関わりのある利害関係社（ステークホルダー）に対し責任ある行動をとるべきだというCSR（企業の社会的責任）の考えが広がっています。産業廃棄物の適正処理を推進し、国民の生活環境の保全と産業の健全な発展に貢献することを目的として設立された公益社団法人全国産業廃棄物連合会の活動は、まさにCSRの考えそのものだと言うことが出来るでしょう。

「CSR2プロジェクト」は、環境保全、社会貢献、ガバナンスと情報開示等、産業廃棄物処理業界にとって非常に重要な活動を推進することによって、企業と社会の持続的な発展を図る活動です。今回のプロジェクトでは、ご当地CSR活動部門、コンプライアンス部門、環境貢献部門、社会貢献部門、地域貢献部門、ステークホルダーと共同実施部門、ぴりり部門、人づくり部門の8つの部門を設置して、エントリーを受け付けました。結果として総エントリー社数1,182社中、事例報告数822と、多くの参加につながりました。表彰式は2014年11月21日の全産連青年部協議会全国大会において催行し、12のプロジェクトを表彰致しました。



目的

経済・経営（※法令等の遵守・情報開示等）、環境保全活動、社会貢献活動の三つの柱をバランス良く推進し、産業廃棄物業界をあげてCSRの普及啓発に取り組み、企業と社会の持続的な発展を図る。



主体

公益社団法人 全国産業廃棄物連合会



企画・実施

全国産業廃棄物連合会 青年部協議会



スケジュール

2014年 9月30日 | エントリー受付終了
2014年11月21日 | 表彰式催行



どんな偉大な旅も 小さな初めの一步から始まります

経済・経営（法令等の遵守・情報開示等）、環境保全活動、社会貢献の三つの柱をバランス良く推進し、産業廃棄物業界をあげてCSRの普及啓発に取り組み、企業と社会の持続的な発展を図ります。





CSR2プロジェクト



サポート体制

【事務局／テクニカルサポーター】

エントリー方法に不明点があったときやデータ収集の方法が不明であった場合の窓口：

カーボンフリーコンサルティング株式会社
TEL: 045-222-3400 MAIL: info@csr2-project.jp

【青年部協議会事務局】

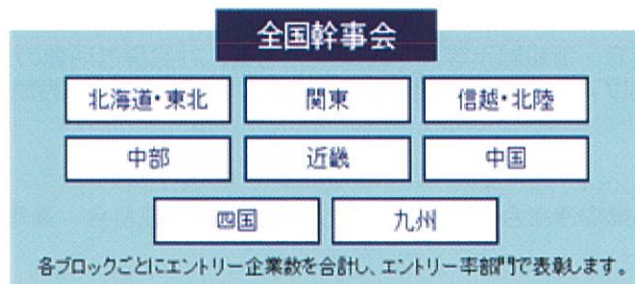
担当する青年部協議会事務局と連携し全国幹事会メンバーおよび各ブロック部会長および会員各社に必要な情報をご提供させていただきます。

【啓発活動】

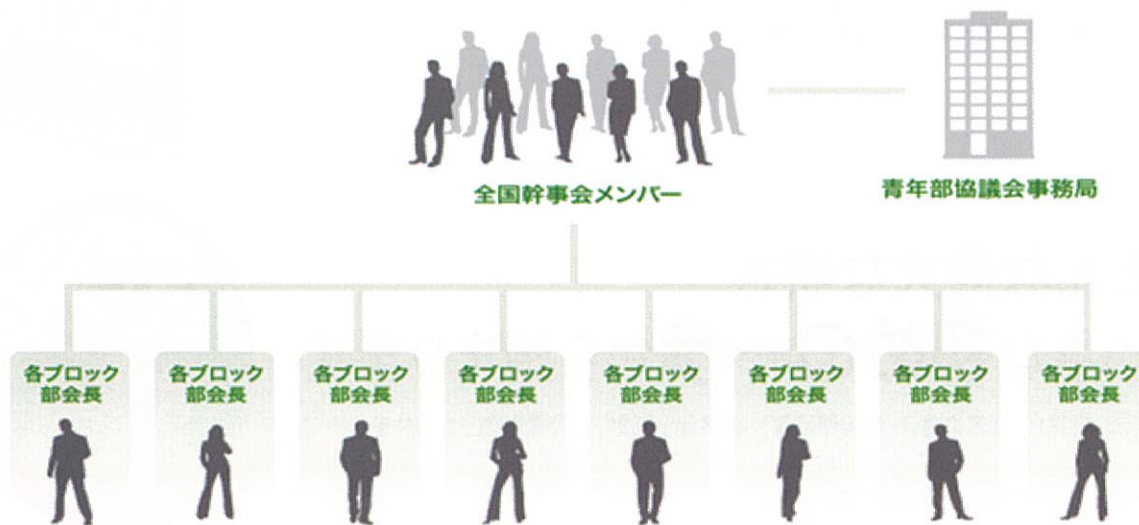
全国幹事会メンバーおよび各ブロック部会長が中心となりエントリー方法やデータ収集等についての啓発活動を行います。

【審査委員会】

各表彰項目は審査委員会で検討した上で決定されます。



◆参加率計算式 $\frac{\text{エントリー企業数}}{\text{各ブロックの企業総数}}$
 $\frac{\text{エントリー企業数}}{\text{各県の全産連参加企業数}}$





取り組み部門

Category

表彰項目を増やし、より地域単位での取り組みを重視致しました。また小さな企業でも参加しやすいようにびりり部門も創設致しました。

ご当地CSR活動部門

各ブロック単位および各都道府県単位で実施したプロジェクトの中で特に優れた取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 県で実施されるお祭りに参加しました。またお祭り翌日に県の青年部協議会で清掃を実施しました。
 - ・ ブロックの5県合同で台風被害に遭われた地区への義援金簿主活動並びに有志によるボランティア活動を展開しました。
 - ・ ブロックの各県の小学校における環境作文コンテストのスポンサーを実施しました。ブロックでの優勝した学校に運動用具を寄付しました。



コンプライアンス部門

法令等の遵守のために実施した活動の中で特に優れた取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ CSR報告書を作成し透明性を高めました。
 - ・ 労働安全管理を徹底する為に新たな取組を開始致しました。
 - ・ ハラスメント防止の為に講習会を実施しました。
 - ・ 企業倫理ヘルプラインを開設しました。
 - ・ ステークホルダーとの円卓会議・座談会を開催しました。
 - ・ CSR調達ガイドラインを作成し、サプライチェーンにも依頼しました。
 - ・ 人権を守った企業活動を行なう為にISO26000の社会的責任について研修会を行いました。
 - ・ 公正な事業慣行を徹底する為にコンプライアンス部を設置致しました。
 - ・ CSRについての社員教育活動を開始しました。



環境貢献部門

環境保全のために実施した活動の中で特に優れた取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 太陽光パネルを設置致しました。
 - ・ グリーンカーテンをおこないました。
 - ・ FSC認証を受けた紙を用いてカレンダーを作成しました。
 - ・ 従業員のマイカー通勤を減らすように啓発活動を実施しました。
 - ・ CO2マイナスプロジェクトで実施してきた消灯、空調の温度調整などを徹底して実施しました。
 - ・ 社員食堂の割り箸をマテリアルリサイクルしています。



社会貢献部門

社会貢献のために実施した活動の中で特に優れた取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 東日本大震災支援の為に義援金集めを行ないました。
 - ・ 東日本大震災支援の為にスタッフが炊き出しをおこないました。
 - ・ 従業員が使用しなくなった古着をご家庭から集めてもらい、クリーニングした上で、途上国に送りました。
 - ・ 日本の森を守る活動の一環として山に間伐作業に行きました。
 - ・ アーティストを応援する為に廃棄物を使ったアート作品の展示会を実施しました。
 - ・ 伝統文化承継・醸成への取り組みとして、年に一回伝統芸能の発表会のスポンサーを行なうことにいたしました。
 - ・ マラソン大会の後援を行ないました。また大会で捨てられるゴミを回収致しました。



地域貢献部門

地域社会のために実施した活動の中で特に優れた取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 近隣の中学生を工場見学に招待して環境教育を行なっています。
 - ・ 近隣の小学生向けに子ども柔道教室の後援を行なっています。
 - ・ 地域の森再生活動のために従業員が植樹活動を行っています。
 - ・ 地域の伝統的なお祭りに会社として参加しています。
 - ・ 毎月第一日曜日に工場周辺の清掃を行なっています。
 - ・ 工場の建物にLEDで装飾し、クリスマスイベントを開催致しました。地域の約3000名が来訪されました。
 - ・ 地域の大学生3名をインターン生として2ヶ月受け入れました。



ステークホルダーとの共同実施部門

排出事業者、従業員、取引先をはじめとする関係者との共同プロジェクトによりCSRに繋がった取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 現在導入している搬入業者へのポイント制度を活用し、ポイントを被災地支援の為に義援金に用いさせていただきました。
 - ・ 排出事業者と共同で、近隣の生き物マップを作成しました。作成されたマップは小学校に配られました。
 - ・ 排出事業者従業員との交流を深める為に、互いの事業について学ぶ為の勉強会を月に一度実施しています。
 - ・ 新入学予定の社員のお子さんに、排出事業者のランドセル製造メーカーと共同でランドセルの贈呈を行いました。
 - ・ ペットボトルの回収、外貨コイン募金を排出事業者、従業員とともに実施しています。



ぴりり部門

活動としては小規模ではあっても、大きな効果があげられる取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 従業員のご家族の為に野外活動を満喫していただきました。野外活動では子どもたちに自然保護の大切さを理解してもらう為の講義も行いました。
 - ・ エコマイレージ制度を同融資、ポイントをもとに算出した金額を地域の社会貢献活動を行うNPOに寄付致しました。



人づくり部門

雇用、労働安全衛生など社員のモチベーションアップに寄与した取り組みを表彰致します。

- 例)
- ・ 従業員満足度向上の為に様々な仕組み構築、女性・障がい者・シニア社員等のダイバーシティ雇用、事故防止、健康診断、労働安全衛生等。

